



歴史のドアを開けよう

Natural History
第5回

いしかり博物誌

地下に眠る氷海の鯨



ホッキョククジラの椎骨。これは横幅 90 cm もあります

石狩湾新港付近には「分部越」という地名が残っています。これはアイヌ語の「フムベ・オマイ」（クジラがいるところ）からきているもので、近くには「鯨塚」という地名もあります。かつては石狩湾にも頻繁にクジラがやってきたことがうかがえます。今でもクジラやイルカの死体が浜に打ち上げられることがあるようです。

さらに昔、今からおおよそ一万年前に最終氷期が終わり、温暖化とともに大陸の氷河が融けて海面が100メートル以上も上昇しました。それから何千年にもわたって石狩市は「古石狩湾」と呼ばれる海の底にあったのです。その時代のような状況を如実に物語るのが、市内低地部の地下から発見されるクジラの化石です。



10~15m

ホッキョククジラ。流水の海に多く見られます



ホッキョククジラとはヒゲクジラ類の一種で、体長は10~15メートル、大きいものでは20メートルにもなります。名前のとおり北半球の寒冷域で生活し、日本付近ではオホーツク海やベーリング海など、流水のある海で見られます。寒さに耐えるために皮下脂肪の厚さが50センチもあったり、流水の下をくぐる邪魔にならないよう背びれを持たないのが特徴です。当時の石狩湾は、今よりも水が冷たかったのでしょうか。

このほかにも、紅葉山砂丘から出土した肋骨（これも資料室に展示中）、美登位からの肋骨、札幌市手稲前田からの頸骨、椎骨（北海道開拓記念館蔵）など、石狩市やその周辺からはいくつものクジラ

7216123

●文化財・博物館開設準備室
お待ちしております。

化石が発見されています。ひよつとしたら、あなたの家の下にもクジラが眠っているかもしれせん。（志賀健司）

■「鯨塚」の起源については詳しいことはわかっていません。何かご存じの方、ぜひ教えてください。また、ご質問やご感想などもお待ちしております。